多角的アプローチがすすむ天文教育９　学会で中高生が発表するジュニアセッションの試み

Diversified approach in astronomical education 9 : Junior Session in the semi-annual meeting of Astronomical Society of Japan

吉川　真[1]
Makoto Yoshikawa[1]

[1] 宇宙研
[1] ISAS

http://bootes.rc.kyushu-u.ac.jp/jrsession/

日本天文学会では、その年会で中学生や高校生が研究発表を行うジュニアセッションという試みを行っている。その目的は、中高生がプロの天文学者の前で講演する機会を提供することにより、天文学に関する学習や研究活動をより活性化してもらうことである。また、最先端の研究発表の現場を見たり研究者と直接触れ合ったりすることで、生の天文学を知り天文学そして広くは理科ないし科学の楽しさを感じてもらうことも重要な目的となっている。

このジュニアセッションは、1999 年の初め頃に日本天文学会の年会実行委員会の中でそのアイディアが出された。1 年近く検討を重ねて、最初のジュニアセッションは 2000 年春の天文学会年会（東京大学）にて開催された。この最初のセッションでは発表数が 17 件、またセッションへの参加者が約 250 名と非常に盛況であった。その後、第 2 回は 2001 年の春季年会（千葉大学、発表数 13 件、参加者数約 250 名）、第 3 回は 2001 年の秋季年会（イーグレひめじ、発表数 7 件、参加者数約 150 名）、第 4 回は 2002 年の春季年会（茨城大学、発表数 23 件、参加者数約 215 名）で行われた。また、この予稿を書いている時点ではまだ開催されていないが、2003 年の春季年会（東北大学）における第 5 回ジュニアセッションでは 17 件の発表が行われる予定である。

ジュニアセッション開催にあたっては、なるべく生徒が参加しやすいように春休み期間に対応する春季年会時にセッションを行うようにしている。ただし、過去数年は春季年会が関東地方に偏っていたため、第 3 回のジュニアセッションは、姫路市で行われた秋の年会期間中の土曜日に開催した。さらに、口頭発表とポスター発表の両方が行えることとし、生徒が参加できない場合でもポスターだけ掲示するという発表もできるようにしている。また、ジュニアセッションに参加できる生徒はどうしても限られてしまうために、第 3 回のジュニアセッションからは、インターネットによる中継を行ったり、ビデオ・オン・デマンドで後からでもセッションの様子を見ることができるような試みも行っている。もちろん、インターネット上にジュニアセッションのホームページをつくり、プログラムや予稿の公開を行っている。以上のような試みによって、なるべく多くの生徒や大人にジュニアセッションに参加したりセッションを知ってもらうことができるのではないかと考えている。

さて、発表される研究対象であるが、太陽系内天体に関する発表が過半数を超えており、中でも流星に関する発表が飛び抜けて多い。これは流星というものが中高生が扱うのに適している題材であることと、ここ数年はしし座流星群が活発だったためであろう。しかし、発表の分野はこれだけにとどまらず、太陽・恒星や銀河、そして観測機器や光害問題等にも及んでいる。また、発表内容もいずれも熱心に研究されたものであり、そのレベルも非常に高いものが多い。むしろ、レベルが高すぎるのではないかという感想さえ出るほどである。このことからは、理科離れや理科嫌いなどということは少しも感じられない。

ジュニアセッションもアイディアの段階からすでに 4 年が過ぎ、ある程度定着してきた感はある。しかし、いろいろ問題はある。第一には、まだやはり参加する生徒が少ないことが挙げられよう。もう少し幅の広い生徒達に参加してもらえるような工夫や努力を行いたい。また、実際に参加した生徒と研究者との交流をどのように行っていくのかも今後の課題である。

最後に、ジュニアセッション開催にあたっては多くの方々のご協力をいただいていており、この場を借りて感謝したい。

［参考１］吉川真、ジュニアセッション世話人会：日本天文学会のジュニアセッションの試み－中高生を天文学会の場に－、天文月報、2003 年 1 月号、p.21-27
［参考２］ジュニアセッションのホームページ：日本天文学会のホームページ（http://www.asj.or.jp/）より